

Can you read お酒です?

DATE: November 25, 2011



Akko Takamiya

Tour Guide-Interpreter / Interpreter

Graduated from Sophia University, worked as a system designer of school computer networks at Fuji Electric group company for five years. Passing the national exam of interpreter tour guide, started tourism business then extended it into international business management service to assist tourists and corporate visitors from overseas.

Website: <http://deartravelers.com>

‘お酒です’、という注意書きをコンビニで見かけたことはないだろうか。そう、缶チューハイなどによくある表示。アルコール入りですよ、とジュースと区別するためのサインなのだけど、日本語だけで書いてある事がほとんど。外国からきた人には当然わからない。以前、私のお客様がひとりでコンビニで買い物をした際にまちがって缶チューハイを買って中学生の息子さんに飲ませてしまったことがある。ウォッカが入っていると後でわかり大騒ぎ!

日本という国は日本語の読み書きができることを前提にできている。日本語さえできればやっていける。国際化の時代ということで英語も大切と言われつつ、実際問題、英語を支障なく話している人などごく少数。どこもかしこも日本語表記だ。

そんな当然のことに気づいたのは、通訳や通訳ガイドの仕事始めて海外からくるお客様と行動を共にするようになってから。日本が（思っている以上に）日本語で動いている、ということに驚いているのは私だけでない。あるコンベンションで「国際展示会なのに、どうして（日本人出展者のほとんどは）英語を話さないんだ、どうして毎回通訳を頼まなければいけないんだ?!」と憤る外国人客の姿を見かけたこともある。

この質問はよく尋ねられるので、こう答えることにしている。「日本語難しすぎるんだもの。私の娘なんて、毎日漢字の宿題で大変よ。3年生で200字、来年4年生でも新たに200字を覚えるの。日本語で精一杯、英語なんてとても無理って感じ。日本語を覚えちゃうほうが早いかも。それに漢字は結構おもしろいの...。」

すると、本当に覚えてくれる。私のお客様はほとんどがビジネス客なので、毎年とか、年に数回とか定期的に日本を訪れているから、いつのまにか、‘品川’とか‘枝豆’のようなよく見る漢字は覚えてしまう。‘品川’は3つの箱と3つの縦線、簡単に覚えられる。枝豆は外国人客に大人気のジャパニーズ・フード、最優先項目だ。

そもそも、日本はビジュアル社会。写真や絵が言葉を補ってくれる。外国から来るお客様は居酒屋さんの写真満載なメニューや、ありとあらゆる商品パッケージに描かれた、まるで話しかけているかのようなキャラクターや絵、それからレストランの前に陳列された立体的で精巧な食べ物のサンプルに歓喜する。浅草のソフトクリームが何十種類もあるお店の前でグループ写真を撮ったことも。旅先では誰しも写真をよく撮る。メールやFacebookで広がれば日本文化のPRにも効果絶大だ。



左：居酒屋さんの‘ピクチャー・メニュー’はわかりやすく、外国人客にも大好評

右：コンビニに売っているアルコール飲料の「お酒です」表示は、日本語のみの場合が多い

私がおつきあいするビジネス客の多くは日頃から様々な国に出張していて旅慣れている。典型的な訪日パターンは、東京都心のシティホテルに数日あるいはせいぜい一週間滞在し、都内でミーティングなど仕事を済ませる。名古屋や大阪に用事がある場合は日帰りだ。せっかく名古屋や大阪に行くのなら旅館にでも泊まって観光したらよいのにと薦めても、また今度ね、と断られてしまう。

彼らは超多忙。ぎりぎりのスケジュールで出張しているので効率重視だ。宿泊施設を移る際に発生するスーツケース（たいてい大荷物！）のパッキングをやたら嫌うし、観光ゼロ、仕事が終わったらまっすぐ帰国もしくは次の出張先に即移動してしまう。

だけど、そんな限られた時間のなかでも日本を楽しんでもらうことはできる。特にアフターファイブは融通が付きやすい。何食べたい？と聞くと、答えはたいてい、サケ・バー（居酒屋さん）。実際好評だ。多彩なメニューを自由に注文できるのと（もちろん大きな写真入りメニューを見ながら）、食事が新鮮で美味しく、ヘルシーなのがその理由。定番人気メニューは、お刺身、寿司、豆腐、焼きそば、焼き鳥など、それからもちろんお酒（しかも冷酒）。

入り口で靴を脱いでロッカーに入れ、鍵をかける、帰るときにその鍵の番号（たいてい日本語で書いてる）を見て自分の靴を探す。こんな居酒屋さんならではのひとコマもちょっとした冒険で楽しそう。たまに女子大生らしきアルバイトさんが「どちらのお国からいらっしゃいましたか？私は英語を勉強しているんですよ。」などと話しかけてくれる。これはとても喜んでもらえる。

居酒屋さんでの食事が終わりホテルに戻る途中、たいていコンビニに寄る。そして、ミネラルウォーターや、何かお部屋で飲みたいものを買う。これが要注意。ビールやノンアルコールビールは表示がわかりやすく、ビールとかアルコール0%といった表記も英語で明記されているのだけど、缶チューハイはなぜかそうでなく、普通のジュースと間違えてしまいかねない。

早く‘お酒です’の表示に英語が加わるか、お酒とわかる絵が添えられるといいのだけど、それまでの間、お客様には‘それはお酒ですよ’と、よくお伝えしなければ。ついでに日本のコンビニではこんなにたくさんの種類のお酒が楽しめること、自慢してしまおう☆

（文：高宮 暖子）

※原文（英語）はyamatogokoro.jp/en ‘Opinion’に掲載